

緑中だより

令和7年10月20日

文責：校長 森田将史

学校教育目標

自ら進んで学び、
社会性と高い志をもった生徒の育成

学校合言葉

素直さ・明るさ・逞しさ

第75回長崎市中学校連合音楽会

“大とり”として、我が校伝統の群青を吹奏
楽部の伴奏で合唱する3年生

MrsGREEN APPLEベストメドレー
を演奏する吹奏楽部

10/16(木)・17(金)の2日間、ブリックホールに長崎市内の38中学校が一堂に会し、第75回長崎市中学校連合音楽会が盛大に開催されました。戦後、何とかして元気を取り戻そうと考え、中学生の音楽会を開いたのが始まりで、長い伝統があります。本校からは吹奏楽部と3年生が緑が丘中代表として参加しました。まずは会場の広さに圧倒され、他校の素晴らしい演奏に圧倒され、初日最後の登場となった緑が丘中、“大とり”を務めました。さすがは吹奏楽部、百戦錬磨というオーラを感じました。落ち着いたあるそして迫力のある演奏に会場から大きな拍手をいただきました。そして3年生の全員合唱。このようなステージに立つことはなかなかありません。ほぼ全員が初めての経験だったのではないのでしょうか。いつも以上に元気のある素晴らしい合唱でした。3年生にとっては大きな行事はこれが最後です。これからは自分の進路を切り拓く、自己実現のための戦いが本格化します。己としっかりと向き合い、目標とする進路の実現に向けて頑張ってもらっています。

生徒集会 給食部委員長から

説明する宮川委員長

ある日のパンの残食

後片付けルール

表彰される1-2

10/17(金)の午後に生徒集会が開催されました。大きな柱は「①給食の残食から考える」「②生徒総会で決議した要望事項について」でした。一つ目の話題についてお伝えします。

以前もお伝えしましたが、特にパンについては残食量が非常に多いです。あるクラスでは10個以上のパンがそのまま配膳室に戻されるという日もあるのが現状です(もちろん欠席者の分もあります)。そこで生徒会給食部専門委員長の宮川さんが、栄養バランスや必要な摂取量についてとても分かりやすく説明してくれました。さらに後片付けのルールについても呼び掛けてくれました。どうしても「好き嫌い」「美味しくない」が先行して残食につながっている様子です。SDGsがグローバルスタンダードとなっている世の中です。パン一切れを食べることができない貧しい国もあります。無理やり食べるということではありません。中学生の皆さんなら分かるはず。今一度考えること、そして自分を振り返ってほしいと思います。ぜひご家庭でも話題にしてみてくださいと幸いです。

そんな中、2学期に入ってパンを完食し、残食ゼロのクラスがありました。1年2組です。全校生徒の前で委員長から表彰を受け、残さない秘訣は?と問われると、いつも呼び掛けているとのことでした。